「クローン病」加藤　敦　23 歳

2011 年 9 月 16 日

私は長崎県在中で 23 歳の自衛官です。18 歳から自衛官になり病気になるまでの間、護衛艦に乗り込んでいました。上下関係は厳しかったですが、先輩方はとても士気が高くやる時はやる、休む時は休むという考えの職場で毎日がとても充実していました。仕事で手旗、簱流、発光信号、海図記入等仕事にも少しずつ慣れ「いざこれから」と言う時に体に異常が起きはじめました。
平成 22 年 3 月、この頃から下痢が続き、腹痛が続くようになりました。
私はただの疲れだろうと思い無視していましたが、お尻に何かができ護衛艦の看護長に相談した結果「クローン病かも知れないね」と言われました。
ちょうど出港していたので横須賀に入港した時にすぐ病院に向いました。
病院では血液検査と内視鏡による検査を行いましたが、「異常は無い」と診断されました。痔によるおできは薬を塗ればしだいに治ると言われて来ましたが、全く治るどころか、どんどん酷くなるばかりで、肛門付近だけでなくすこし離れた所にも膿が溜まり始め座る事も難しくなって来ました。それにともない発熱も続き本当に辛かったですし、先輩達に迷惑をかけまいと訓練も気合で乗り越えていました。(今思うと無理して訓練中に倒れてしまう方が迷惑なのだと思いました。
22 年 10 月痔の薬（軟膏）を使用して二ヶ月、全く効果が無くとうとう手術を行う事になり、いぼ痔や切れ痔でなく、痔ろうが一番の原因で座るのも困難にとなっていると判断されました。同じ様に発熱も痔ろうによる膿が考えられると言われ私はクローン病によるいろいろな合併症に初めて恐ろしさを感じた事を覚えています。
平成 22 年 11 月悪化した痔ろうを手術し、翌月退院のはずが熱が 39℃まで上がってしまい退院が延びてしまいました。その後順調に回復し 5 日後に退院しましたが、退院直後、昼食を食べたら下血が始まりました。今までこんな事はありませんでしたが、「痔の手術を行ったけど切れたのか」と一人で考え、次の便で血が止まらなかったら病院に行こうと決め待期していました。「やっと便意が」トイレに入って済ますと 1 回目と同じ鮮血が出ました。これはちょつとまずいヤバイと感じ病院に行きお尻を見てもらいましたが、異常は見当たらず。
先生に言われた事は「切れ痔とかは多そうに見えるけれど、実際はあまり出血してないんだよ。」と言われ安心しましたが、家に帰り便を出すと同じく便器が真っ赤に、「本物の血液だ」本気で恐怖を感じました。「先生は大丈夫って言っ

たけど本当！？」次に出たら絶対病院に行こうと決め家で待期を続け約 3 時間後に便意を感じトイレに入りました。出血はしているのか不安でなりませんでしたが、腹痛も全く無かったので「俺は大丈夫だ」と言い聞かせ便を出した瞬間に目の前が白くなり、ものすごい脱力感に襲われ、そのままトイレで倒れました。かろうじて意識はあったものの動くのは首と腕のみ、立つ事は出来ずなおかつ一人暮らしだったので誰もいません。助けてくれません。幸い、ズボンのポケットの中に携帯電話を入れたので自ら 119 番をして救急車を呼び、どうにか病院に着きましたが、腹部のレントゲンを撮るために、
立ち上がったまでは、覚えていますがその後、倒れたみたいで気付けば輸血の準備がされていました。医者から輸血しないと状況は良くならないと言われ仕方なくサインし、輸血を受けましたが、将来的に献血が出来ない体になってしまったのも事実です。ショックでした。その後 2 週間の絶食、内視鏡による検査等、口から、尻から、カメラを入れられとても検査は厳しかったです。
検査も終え、医者から「クローン病です」と申告されました。「これからは食事に気をつけて、脂質は 1 日 20ｇを心がけて下さい。」意味が全くわかりませんでした。食欲が人一倍強い私は非常に混乱し、受け入れるはずがありませんでした。病院にあるサンプル、とんかつ定食、脂質 80ｇ、絶望です。クローン病について調べる程深刻な事ばかり目に入りました。薬はレミケード（免疫抑制剤）やペンタサ（免疫抑制剤）等、体のために飲むのか？と思い飲んでいました。その結果咳、鼻水は止まらないし、飲んでいる限り治らないだろう、しかもこのクローン病患者はおよそ 2 万人ぐらいおるなら一人位治った人がいるのではと思いインターネットで「クローン病治る」というワードを入れたら大阪府高槻市にある松本医院が載ってありました。ページを開くと「クローン病は治ります。」「病気は自分で作り自分で治す事が出来る」と書いてありました。
そしてこの病院に行きたい！！と思ったきっかけが小西竜二さんが書いた手記でした。入院中の私は小西さんの手記を何回も何回も見ました。クローン病を申告され絶望だった私をこの手記は精神的に何度も助けたくれました。
次第に松本医院に行ってみたい。先生に会ってみたいと思うようになり、
入院中にも関わらず、思いきって病院の公衆電話からかけてみました。
少し緊張しながら「長崎在中でクローン病になり小西さんの手記を拝見し電話をしました。」と伝えると受付の方が松本先生の所には全国から集まってきますよと言われ、すごい先生なのだなと、とても期待し、12 月に予約を入れ電話を切りました。早く松本先生に会って漢方薬すごさを体で感じてみたい。日に日に思いは強くなり、入院しているのに主治医の話は軽く聞き流していました。
何故ならクローン病等の病気は医者と製薬会社が儲かる仕組みになっていると先生の論文と実際にクローン病と診断を受けた小西さんの手記を見て正直医者

が信じられなくなりました。ペンタサも処方されるととてもとても高いし私はこの病院には行きたくない。長崎から大阪まで遠いけれど、松本医院をファーストオピニオンにしょう。大量に薬を投与される前に行動せないかん！！そう思い退院の日をずっと待っていました。平成 22 年 12 月 10 日ついに退院しました。そして予約の日は 22 日、それまでは病院から処方されたペンタサを 1 日 6 錠飲んでいました、そして当日 JR に乗り新幹線を利用し、松本医院に到着。皆さんが書いて下さった手記の通り、松本医院の中は漢方の香りでいっぱいでした。初めての病院はとても緊張しましたが、待合室にある手記はリウマチ
アトピー 喘息、そしてクローン病など数多くの種類があり、とても驚きました。そして初めて松本先生にお会いしました。先生はとても熱い方でした。「遠くから有り難うや絶対に治したる。」等プラスになる言葉私に掛けてくれました。又病気を治すためには自分の心がとても大切と私は先生から教わりました。何故心が大切かと言うと精神が病んでしまう事によって免疫が落ちてしまうために良くなる病気も良くならなくなると説明されたたからです。仕事は無理してはいけない、余裕を持って臨めばいい。先生が私に集団で生活して気を遣い過ぎたんやな。と言って頂き本当に嬉しかった。病気と心はとても密接な関係があると知りました。又環境汚染、化学物質やストレスにより IgE が IgG に変わり病気の原因になる事も知りました。先生の論文はわかり易いですが、私はちょっと手記で説明文とか書くと間違った事を書きそうなので控えます。一つ言える事はストレスは非常に体にダメージを与えてしまうという事です。
以上の説明を受け薬を処方してもらいました。漢方薬ははるかに苦いひたすら苦い。こんな薬は人生初で続けられるか心配でしたが、2、3 日飲んだだけで、半年以上続いていた下痢が止まってしまいました。とても驚きました。
2 ヶ月程飲み続けると発疹が出来ました。これがクラススイッチで私は約 1 ヶ月しかペンタサを投与しなかったために早く反応が出たみたいです。
今現在も私はクローン病を松本医院で治療してもらっていますが、
下痢、腹痛は驚く程減りました。インターネットで松本医院を見つける事が出来てとても幸運に思います。普通に仕事が出来る事、食事ができること、あたり前の様だけど本当はすごく幸せな事なのですね。
クローン病で絶望していた私に松本先生は新しいレールを敷いてくれました。
私はこれから病気になった体験を生かしアトピーや喘息、
同じクローン病で苦しい思いをしている仲間がいたら、
是非松本先生の所に行く様に勧めてみようと思います。